

2020年4月15日

医療崩壊阻止に向けて（会員へのお願い）

（公社）日本理学療法士協会
会長 半田一登

新型コロナウイルス対応で、個人としても職業人としても大変な状況と拝察します。この状況は世界的にも人類が初めて経験する重大局面と判断しています。今、我々が注力しなければならぬことは「医療崩壊」を起こさないことです。

会員の皆様におかれましては下記についてご確認いただき、ご理解とご協力をお願いいたします。

記

1. 自身の感染予防に万全を期すこと

我々の職場環境からすれば、新型コロナウイルスに感染する可能性をゼロにすることは困難です。しかし、ゼロにする努力をするのが医療職の務めだと思います。

2. 看護師不足による医療崩壊の阻止に向けて

現在、本会では政府及び厚生労働省に向けて、理学療法士による看護師の支援体制構築を提案しています。感染病棟への看護師の傾斜配置、看護師の感染等々、看護師全体に大変な負担がのしかかっています。

新型コロナウイルス感染問題が収束するまでの期間において、ADL維持向上等体制加算の条件緩和を行う等によって、看護師の負担を減らすことを目指すべきと考えます。会員一同が「医療崩壊」を防ぐ一助と理解し、ご理解ご協力をお願いいたします。

3. 献血事業に協力すること

外出抑制で献血量が決定的に不足しています。輸血用血液があれば助かる命の危機です。本会会員の平均年齢は33歳で、会員数は12万人を超えています。若い力を合わせてこの危機に対応しようではないですか。

献血に協力できる会員は日本赤十字社HPを確認してください。ただし、一気に献血量が増えてもその血液を使用できる期間は2週間に限定されています。是非、職場単位で計画的にご協力いただければ幸いです。

以上